非水百花譜

第七輯

大正
9. 6. 24
內交

始

ひなげし（罌粟）

學名 Papaver Rhoeas L.

漢名 虞美人草、麗春花

英名 Shirley Poppy, Corn Poppy.

科名 罌粟科（Papaveraceae）

歐洲産に北部亞米利加に原産する一年草又は越年草にして稍ゝ罌粟に似たれども之より小さく纖弱なるの觀あり。高さ一二尺にして葉葉共に毛茸を生じ數枝を分岐す。葉は羽狀に分裂し、裂片は罌粟に比し狹く長し。

五六月の頃四瓣大輪の美しき花を開く。紅色にして黑褐色の基底ありを原種とすれど、栽培品種には白色、桃色、濃紅、或は之等の色彩の瓣底に他色を混ずるもの或は八重花等ありて頗る美麗、今は各地の庭園に栽植せられ春花崗の草花として缺く可からざるもの、一とはなれり。

花は蕾の時下向して向地性を示し綠色有毛の二個の大なる萼片に包まるれど開花するに及び、上向し萼は脱落し背地性となる。雄蕊多數にして中央に倒卵形の子房を有し、柱頭は圓板狀をなせる胎座上にあり。果實は蒴果にして熟するに及ば ば柱頭下に小孔を生じ、之より種子を散ず。種子は極めて小さく黑色又は黑褐色を呈し蒴内に多數藏せらる。

雄蕊は昆蟲の好みて食するものにして、爲に他花受粉を行はれ、又罌粟と同じく未熟なる果實にはモルヒネ（Morphin $C_{17}H_{19}NO_3$）ナルコチン（Narkotin）コデイン（Kodein）等の劇毒なる植物鹽基を有せり。

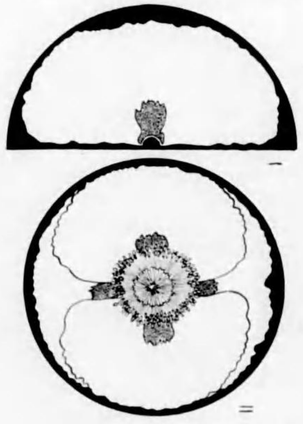
備考

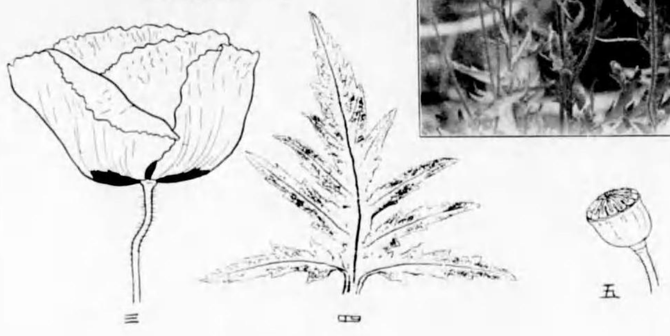
一、Papaver なる語は Papa 卽ち粥又は濃きミルクの意にして、本種の果實及葉葉に白色の濃汁を藏するが爲に附せられたるならむと思考す。

本圖 大正九年五月十三日東京に於て寫生（自然大）

附圖 （一）花瓣の形狀、（二）花の正面、（三）花の側面、（四）印葉、（五）蒴果（全部自然大）

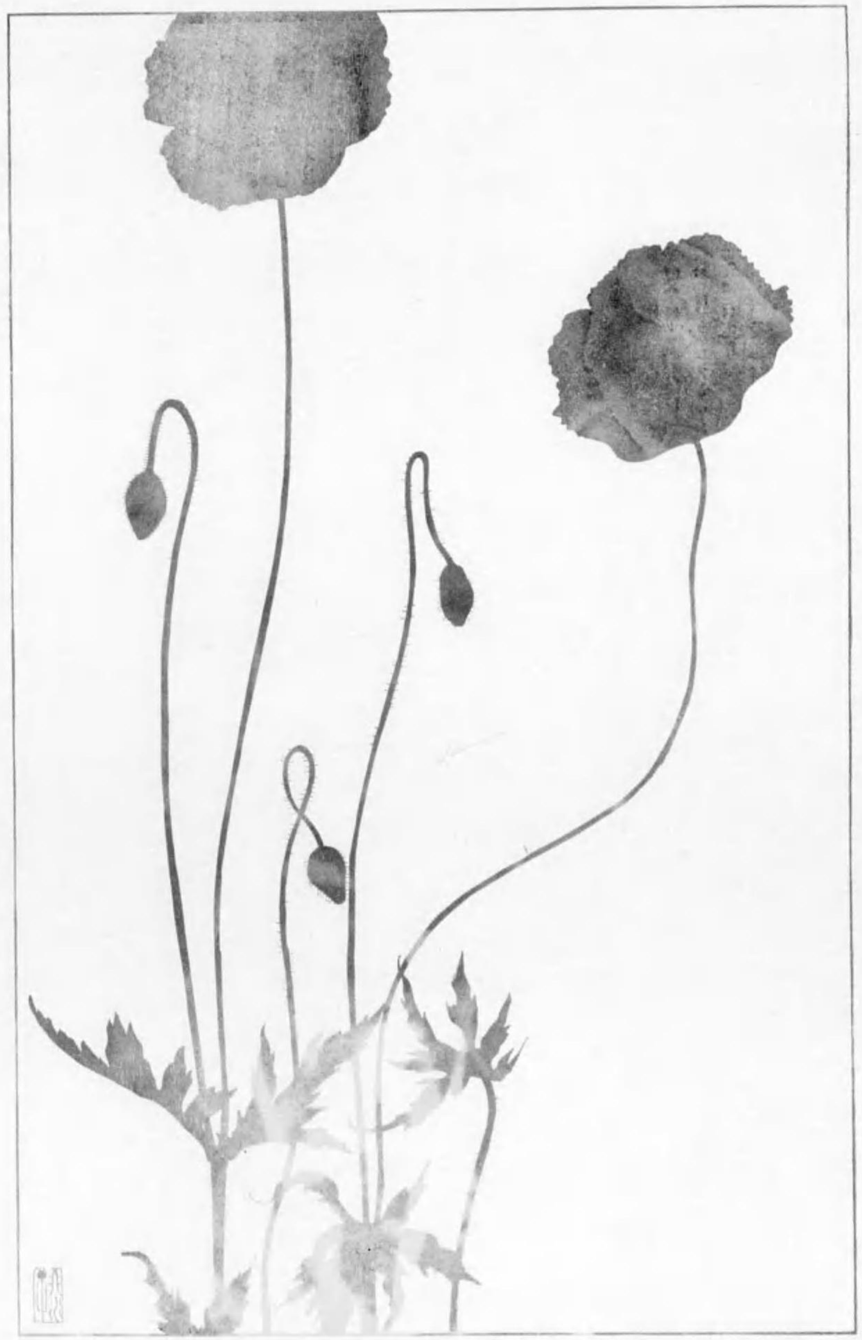
寫眞 大正九年五月上旬東京に於て著者撮影





非水百花譜第七輯目次

ひなげし（罌粟）
びやうやなぎ（未央柳）
あかつめくさ（赤爪草）
こひるがほ（小晝顏）
はうちやくさう（寶鐸草）



びやうやなぎ（未央柳）

學名 Hypericum chinense L.

漢名 金絲桃　未央柳

英名 St. John's Wort.

科名 金絲桃科(Guttiferae)

性知る强靭にして一株よく數多の枝條を叢生し、高さ四尺許に生育する小灌木なり。學名なる Hypericum も元沼地に適する植物を意味し Ypericon に語原を有す。（Ypericon account of, strike a heath）。全形概ねキンシバイに類似すれど葉は全緣にして葉柄なく、長楕圓形にして互生せり。

夏期枝條の先端に濃黃色の花を開く。花は放射相稱にして兩性、花瓣は五箇にして各片共に一隅缺如せるを普通とす。雄蕊は多數にして花絲の基脚を以て五個づつに合着し、所謂群束をなす。

雌蕊一個、子房は一室又は不完全なる三室をなし側胚胎座なり。胚珠は倒生し果實は胞間裂開をなす所の蒴果にして多數の種子を藏し、種子には肝乳を有せず、之に代りて幼軸は異常の發達を遂げ却つて子葉は小となれるの現象を呈せり。

又本種の花は開花の當初、昆蟲によりて他花受粉を遂ぐれども後に至れば花絲は漸く萎凋し漸次内方に曲りて自花受粉をなす。

花の美しきにより觀賞植物として栽培せらるゝもの多し。

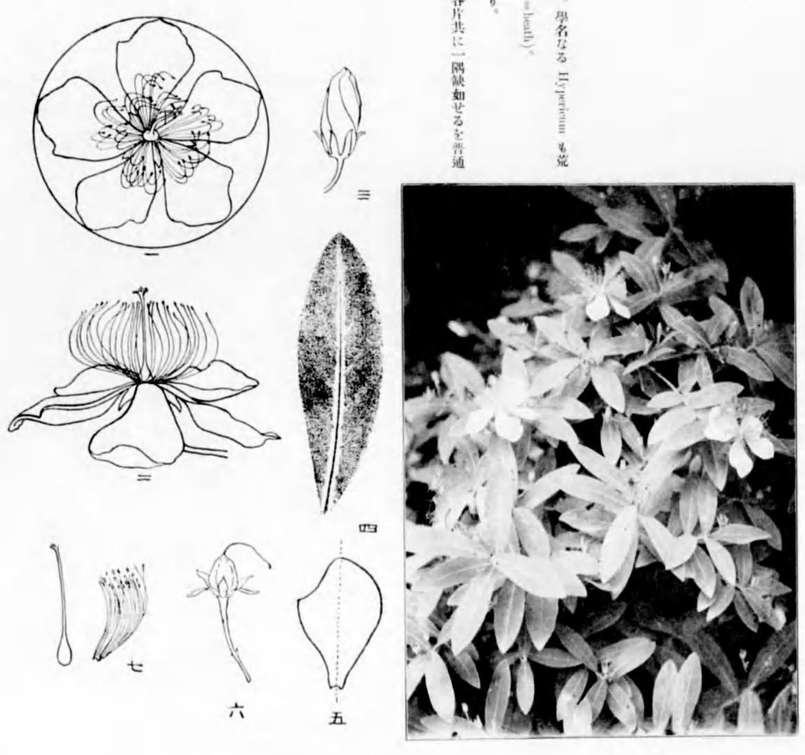
備考

一、學名に Hypericum salicifolium が入N を當つるものあり。

本圖 大正八年七月一日東京に於て寫生（自然大）

附圖 （一）花の正面、（二）花の側面、（三）花蕾、（四）葉、（五）花瓣の形狀（六）蒴果、（七）雄蕊及雄蕊の群束、（全部自然大）

寫眞 大正八年七月上旬東京に於て著者撮影



雜誌 矢倉市之新刊
東京市日本橋區通四丁目
杉浦非水畫
東京市日本橋區通四丁目
東京堂發行

あかつめくさ（赤爪草）

學　名　Trifolium pratense L.

異　名　むらさきつめくさ

英　名　Red Clover, Common Clover.

科　名　荳　科（Leguminosæ）

白つめくさに似たる歐洲原産の多年生草本なれど葉葉腋に花形共に之より大にして且幾分異れる所を存す。葉は三出掌狀複葉にして各小葉は概ね全緣なれど時に鋸齒を有する事あり。根は根瘤バクテリアと共生し所謂根瘤を作る。

六月頃より紅色の花を開き集花の狀、白つめくさに類す。花長約四分、花は左右相稱にして花瓣の幼時は覆瓦狀をなし、上方の花被は下方のものを包む。

雄蕊は十個ありて下方の九個は合一し、旗瓣の側方にある上部のものは分離せり。葯は同形を有し、龍骨瓣は鈍頭なり。又花瓣の爪は花絲筒に合着し、花後乾燥して殘存、萎凋するの特性あり。

性頗る强健、よく繁茂し、通常牧草又は綠肥として栽る重用せられ、牧畜家の缺くべからざる飼料の一にして爲に花言葉にも勤勉（Industry）の意味を有するに至れり。

備　考

一、一種スウイザーランドに產するものに T. pratense var. vaginatum と稱するあり。形狀兩種より稍々小さく淡黃色の花を開く。

二、學名なる Trifolium は三葉なる語の集成にして葉の三複葉を表象し、pratense は牧場（Meadow）なる意味を有す。

本　圖　大正七年六月二十九日東京に於て寫生（自然大）

附　圖　（一）花の正面、（二）花の側面、（三）花の背面（以上擴大圖）（四）印葉（自然大）

寫　眞　大正九年六月上旬東京に於て著者撮影

太
柳
泉
（植物學士）
著
植物圖〔ノ〕ノ
在植物學會行
東京市小石川區久堅町千五番地
株式會社水盛
印刷所

こひるがほ（小旋花）

学名 Calystegia hederacea Wall.

英名 Bearbind

科名 旋花科(Convolvulaceae)

原野路傍等到る所に自生する多年草にして、蔓延性にして其の中央部には所謂葉柄を生じ、側片は外方に開いて大型葉を且其の一側を生ずる事あり。茎、葉、花共にミヤマキヒルガホに比し可なり大なる傾あり。

葉柄は細長円柱状を有し、葉腋に単生同等の大小の芽を生ず、即ち単生同等の大小のものは葉腋よりも上方のものは花芽となる。

花は葉腋に一個宿生し花柄を生じ淡紅色の花を開き日蔭に閉じ、花は放射相称にして雌雄、萼片は五枚に分れ宿存し、萼を包み小苞は広大にして多少長楕円を呈し、花冠の上端小苞に接する部は縊を生ずる。花冠は初め内向屈曲し後ち各片は更に二重に褶曲せり。雄蕊五本、花冠の基部に着生し花糸は扁平にして二列、且つ内方列は細く外方列は幅広く翼状を呈す。花粉は球形にして平滑、雌蕊は雌蕊柄にして子房、柱頭各一、子房は上位にして後ち基部を有し二個の分室あるも後ち不完全となる。二室共に胚珠を蔵す。胚珠は各分室中に二個づつあるも不完全に発生し、稀に一個宿す。

本種の学名なる Calystegia は Kalux=Calyx, stege=covering なる語よりなるものにして、萼が小苞に覆はれて蔓延するに因に此の名の生じたるものとす。又 hederacea は Ivy-like なる意味を有す。

備考

I、本種に入れるものもあり。

II、本種は Calystegia pulsesens なる学名を用ふる事あり。

III、異名多けれど本種に属すべきものにミヤマキヒルガホなる名称あり。即ちこれは特性を多く此の種と酷似して殊に小苞の形、葉の形等本種の名称をミヤマキヒルガホに固定されしものなれば、異名を分ちミヤマキヒルガホは別に属れり。

標本 大正七年六月十日東京郊外に於て採集(白鳥人)

説明図 (一)(二)花の側面、(三)(四)花冠、(五)花の正面、(六)印実、(七)蕾、(八)果実の一(全部白鳥人)

産地 大正八年六月中旬東京郊外に於て採集

昭和三年三月廿日 小 [illegible]

はうちやくさう（寶鐸草）

學　名　Disporum sessile Don.

異　名　狐の提灯

漢　名　寶鐸草

科　名　百合科(Liliaceae)

本邦諸州及に支那に分布する多年生草本にして多くは山林陰地に生じ一尺餘に生育す。地下には根茎及び扁平にして、根茎は茎に分枝し地上に出でゝ地上茎となす。葉は長楕圓形にして先端尖り裏面に明かなる葉脈を表はし且つ茎を抱きて互生す。全形見て大型のうぐひす菜（D. smilacinum A. Gr.）に似し、五月頃枝梢の上端葉腋より一二枝を出し其の頂端に一寸餘の花柄を生ず、花は一乃至數花を繖形花序をなして下垂し、其の狀恰も寶鐸の如し。花被の上部は白色にして下部淡紫色を帶び六片にして六雄蕊を有し子房は三室にして花柱は分れて三裂したる。蒴果は卵形、赤紫色を呈す。果實は圓形黑色の種子なり。

一種 Disporum sessile var. variegatum 一名斑葉は白色の斑紋を有するものなり。

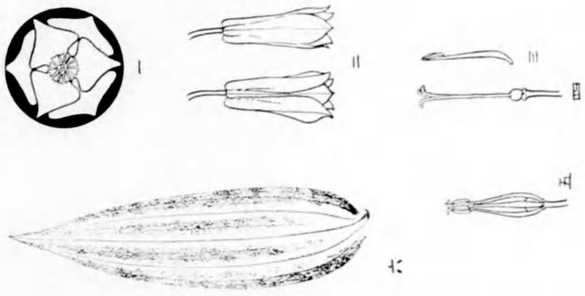
備考

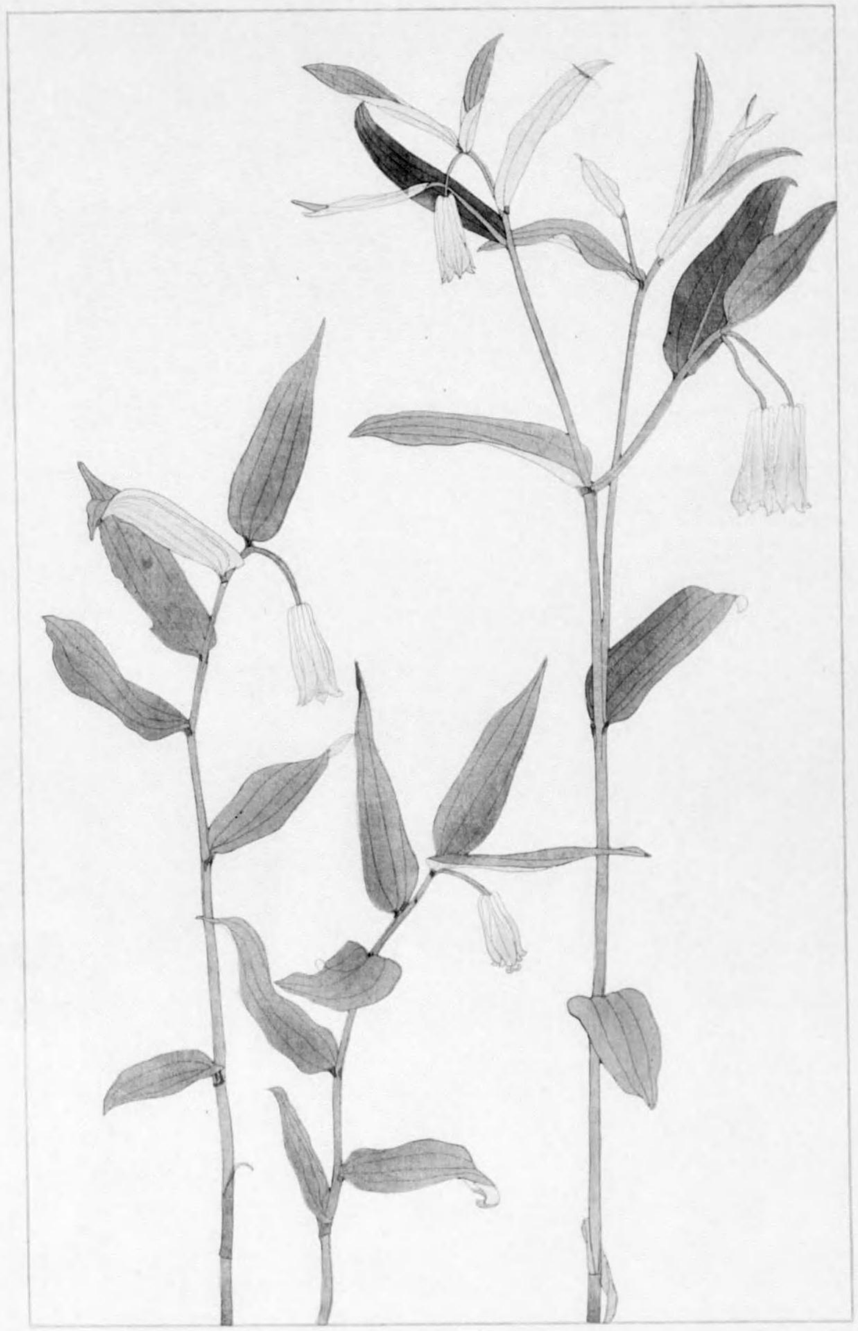
一、Disporum なる學名は di=double, sporos=seed なる二語より成りたるなり。即ち本屬のものは種皮（Seed vessel）の各細胞に胚珠を有するが故にして又 sessile は stalkless の意味を有す。

採　集　大正七年五月二十日東京都本郷区駒込にて採集（白澤人）

附　圖　（一）花の正面、（二）花の側面、（三）雄蕊、（四）雌蕊と子房、（五）花被を取りて見たる雄蕊、（六）同葉（（一）は縮大圖他は全倍白澤人）

寫　眞　大正九年六月花後東京に於て著者撮影





終

實業之日本社
東京市日本橋區蠣殼町四番地
大倉生兵衛刻
田口菊松摺
春陽堂製作